



長崎市立南長崎小学校

令和4年1月17日

子どもの理解について

○ 子どもへの気づきと理解

早期発見・支援が、後の子どもたちの成長、発達に効果的なことはこれまでも触れてきました。発達障害は、全般に渡っての遅れがあるわけではないので、気づくことが難しいと言われています。

しかしながら、その一方で、ある団体の調査によれば、「言葉の遅れ」「特定の物へのこだわり」「ぎこちない動作」「集団行動が苦手」などの子どもの様子から、大半の保護者は3歳くらいまでに「何かあるのでは？」と感じているそうです。

発達障害をもつ子どもたちの中には、幼児期では診断が難しいケースや、成長に伴って状態が変化する場合があります。

大切なのは、診断の有無ではなく「子どもが得意なことや苦手なことなど、子どもの特性を保護者はもちろん、周囲の大人がきちんと把握し理解したうえで、適切に育てていくこと」だと思います。

○ 周囲の理解

発達障害の子どもたちは、定型発達（通常の発達）の子どもたちとの発達のずれがみられる場合があります。

落ち着きがない、集団行動がとれない、周囲とのトラブルが多いなどの問題行動が見られると、保護者（特にお母様の育て方）の問題とされ、周囲から責められることもあります。そんなことはありません。

子どもの様子に不安を抱きながら、一人悩んでいるお母様方もいらっしゃいます。それなのに周囲から非難を受けると、子育てに自信がなくなったり子どもを受け入れられなくなったりすることにもつながります。

その結果、DV（虐待）やネグレクト（育児放棄）といった悲しい出来事が起こる可能性もあるのです。

もし、悩んでいる保護者の方に声をかけることができれば、一緒に考えていくことができれば・・・結果は変わってくるでしょう。

保護者の方はもちろんのこと、**宝物である子どもたちが救われることにつながると**思うのです。

知らないことから「誤解」が生まれる。

「誤解」をそのままにしておくと「偏見」になる。

「偏見」が積み重なると「差別」になる。

「差別」は、絶対に許されない「人権問題」です。

※ 保護者の皆さんの中で、お悩みのことがありましたら、SC（スクールカウンセラー）などへの相談もできますので、お気軽にお申し出ください。